

# 1. 銅の国際市況と需給動向（2008年1月まで）

企画調査部

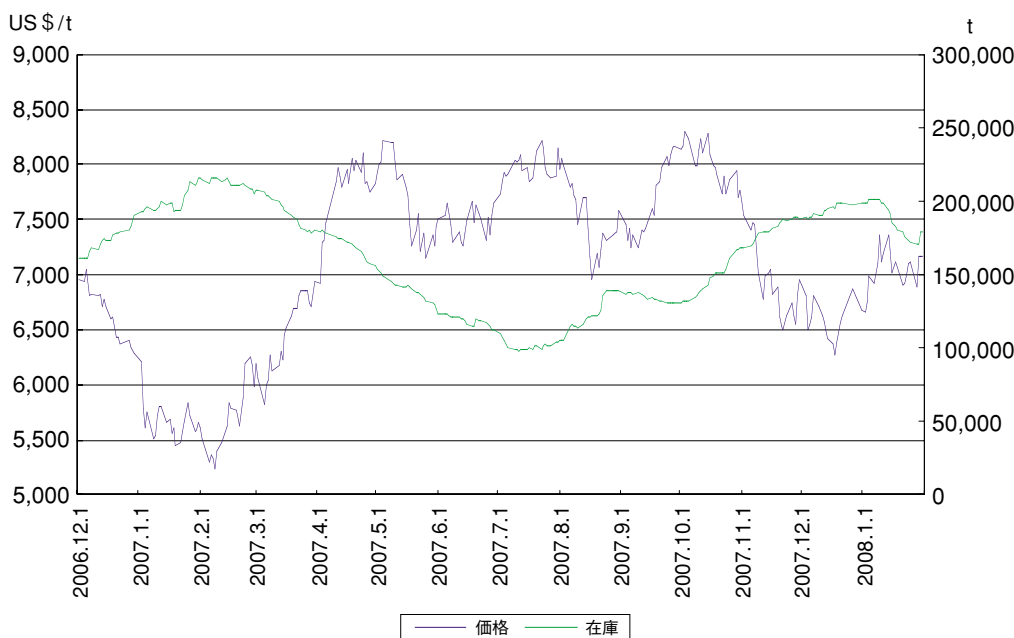
1. 銅の国際価格は需給緩和により下落したものの依然高い水準にある。
2. 1～11月の銅地金消費は前年同期比6.8%増。一方、鉱山生産は同3.6%増、地金生産は同5.1%増。その結果、1～11月の需給バランスは、149千tの供給不足。
3. 国際銅研究会によると、2007年は110千t、2008年は250千tの供給超過となる見込み。

## 1. 国際価格（2007年12月～2008年1月）

12、1月のLME銅価格は需給緩和の傾向にあり12月まで下落傾向にあったが、1月に入り回復しており6,400US\$/t台から7,300US\$/t台と依然高い水準で推移。

12月のLME銅価格は月中旬まで下落傾向、その後回復傾向に転じた。12月3日に6,807US\$/tでスタートした後は上下しつつも12月18日に6,273US\$/tまで下落した。その後、12月27日に6,871US\$/tまで回復し12月31日に6,677US\$/tで終了した。

1月のLME銅価格は月中旬まで上昇傾向、その後下落傾向に転じた。1月2日に6,666US\$/tでスタートした後は上下しつつも1月14日に7,361US\$/tまで上昇した。その後、1月28日に6,893US\$/tまで下落し1月31日に7,171US\$/tで終了した（図1-1）。



銅	2007年											2008年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
LME在庫 (月末) (千t)	208	178	157	129	115	102	139	131	167	189	197	179
平均価格(現物) (US\$/t)	5,676	6,452	7,766	7,682	7,476	7,974	7,509	7,649	8,008	6,967	6,588	7,061

図1-1 銅価格と銅在庫の推移

出典:LMEホームページ

## 2. 需給 (2007年1～11月)

- ① 1～11月の消費は、最大消費国の中国が36.8%と大幅増となったこと等により、世界計では前年同期比6.8%増の16,810千t。
- ② 1～11月の鉱山生産は前年同期比3.6%増の14,090千t。
- ③ 1～11月の地金生産は前年同期比5.1%増の16,661千t。
- ④ その結果、1～11月の需給バランスは149千tの供給不足。
- ⑤ LME在庫量は、11月末189千t、12月末に197千t、1月末に179千tと推移している。

### 〈需要〉

2007年1～11月の世界消費は前年同期比6.8%増の16,810千tであった。世界消費は8月1,448千t、9月1,506千t、10月1,530千t、11月1,537千tと推移している。国別では3位ドイツが0.8%減、4位日本が2.4%減、5位韓国が2.6%減だったものの、最大消費国の中国が36.8%と大幅増、2位米国が0.7%増となり全体として増加した。

### 〈供給〉

2007年1～11月の鉱山生産（金属純分、以下同様）は前年同期比3.6%増の14,090千tであった。鉱山生産は8月1,239千t、9月1,278千t、10月1,332千t、11月1,304千tと推移している。鉱山設備稼働率は8月82.2%、9月87.4%、10月87.9%、11月88.7%と推移している。国別では、2位米国が2.0%減、5位豪州が0.9%減であったが、最大生産国のチリが4.0%増、3位ペルーが13.4%増、4位中国が4.6%増となり全体として増加した。

2007年1～11月の地金生産は前年同期比5.1%増の

16,661千tであった。地金生産は8月1,505千t、9月1,538千t、10月1,565千t、11月1,562千t、と推移している。精錬所設備稼働率は8月80.4%、9月84.7%、10月83.1%、11月85.5%と推移している。国別では、最大生産国の中国が17.6%増、2位チリが5.0%増、3位日本が3.4%増、4位米国が7.7%増、5位ロシアが3.3%増と世界的な増加傾向により全体として増加した。

### 〈需給バランス〉

2007年1～11月の銅需給バランスは149千tの供給不足であった。年前半は供給不足が続いていたが8月57千t、9月に31千t、10月35千t、11月に25千tの供給超過で推移している。季節調整後の需給バランスでは、8月に9千tの供給不足、9月に69千t、10月に4千t、11月に23千tの供給超過と推移し、1～11月では6千tの供給過剰となっている。

LME在庫は11月末189千t、12月末に197千t、1月末に179千tとやや回復傾向で推移している（表1-1、1-2）。

表1-1 銅の需給状況

単位:千t、金属純分

銅	2006年												2006年計	2006年1～11月
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
鉱山生産量	1,197	1,089	1,226	1,198	1,257	1,237	1,243	1,212	1,184	1,341	1,351	1,408	15,008	13,601
地金生産量	1,433	1,328	1,448	1,423	1,452	1,444	1,454	1,438	1,445	1,488	1,471	1,521	17,331	15,846
一次地金生産量	1,249	1,162	1,256	1,232	1,253	1,245	1,245	1,230	1,242	1,275	1,269	1,298	14,865	13,480
二次地金生産量	184	166	192	191	199	199	209	208	202	213	202	223	2,466	2,366
消費量	1,420	1,306	1,439	1,439	1,492	1,438	1,439	1,357	1,470	1,423	1,460	1,335	16,994	15,742
需給バランス	13	22	8	-16	-40	6	15	81	-25	65	11	186	337	104
銅	2007年												前年同期比(%)	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1～11月		
鉱山生産量	1,276	1,162	1,352	1,262	1,314	1,276	1,267	1,239	1,278	1,332	1,304	14,090	3.6	
地金生産量	1,520	1,393	1,499	1,500	1,529	1,491	1,498	1,505	1,538	1,565	1,562	16,661	5.1	
一次地金生産量	1,311	1,201	1,284	1,284	1,302	1,261	1,278	1,279	1,303	1,319	1,318	14,112	4.7	
二次地金生産量	209	192	215	216	227	229	232	226	234	246	245	2,549	7.7	
消費量	1,529	1,466	1,594	1,602	1,533	1,548	1,518	1,448	1,506	1,530	1,537	16,810	6.8	
需給バランス	-9	-73	-95	-101	-5	-57	-20	57	31	35	25	-149	-	

\*データは国際銅研究会のものを使用しているが合計等は必ずしも合わない。

出典：国際銅研究会資料

表1-2 LME国別銅在庫の推移

単位:千t

国名	2007年												2008年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
ベルギー	1.675	0.925	0.675	0.675	0.675	0.675	0.675	0.675	0.675	1.100	1.075	1.725	
フランス	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
ドイツ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
イタリア	18.750	16.250	18.250	18.350	16.550	13.075	10.250	8.725	12.475	15.800	16.000	14.375	
韓国	12.500	10.400	8.900	13.050	24.325	40.375	71.175	69.250	75.900	80.250	78.925	57.100	
マレーシア	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.475	0.725	0.725	0.125	0.125	
オランダ	55.375	53.250	44.400	27.750	19.875	5.550	6.525	7.200	19.025	26.300	24.225	24.450	
シンガポール	10.400	6.325	6.700	6.625	6.975	10.600	15.150	10.725	15.925	14.100	13.300	12.450	
スペイン	2.075	1.025	0.650	0.650	0.650	1.500	2.350	2.350	2.600	2.750	2.775	3.275	
スウェーデン	2.500	2.500	2.375	2.250	1.150	1.050	0.150	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
UAE	0.150	0.150	0.150	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	
英国	7.475	5.650	4.100	2.925	2.375	2.250	2.250	2.075	2.150	2.050	1.925	8.925	
米国	94.500	84.600	70.350	55.150	40.000	28.375	30.550	29.175	37.500	46.400	60.550	55.350	
合計	205.400	181.075	156.550	127.450	112.600	103.475	139.100	130.675	167.000	189.500	198.925	177.800	

出典:国際銅研究会資料

### 3. 今後の需給見通し (国際銅研究会予測)

#### 〈需要〉

2007年の世界の銅消費は前年比5.2%増(890千t増)の18,000千tとなる見通し。中国での伸びが目立つが、それとともにインド、ロシアの消費が継続的に伸びている。一方、米国、日本、欧州では減少する見込み。2008年の世界の銅消費は前年比3.8%増(690千t増)の18,700千tとなる見通し。

#### 〈供給〉

2007年の銅鉱山生産は前年比5.1%増(770千t増)の15,970千tとなる見通し。これは新規鉱山開発や生産能力の増加によるものである。2006年の生産量はチリ、インドネシア、メキシコでの生産障害により前年並みとなった。2008年の銅鉱山生産は前年比7.6%増(1,200千t増)の17,000千tとなる見通し。この増加は

新規鉱山開発、生産能力増加による。2007年、2008年ともにSX-EW生産は精鉱生産より伸び率が高くなる見込み。

2007年の銅地金(一次、二次含む)生産については前年比4.4%増(765千t増)の18,120千tとなる見通し。また、2008年の銅地金生産については前年比4.6%増(830千t増)の18,950千tとなる見通し。電解精錬生産は中国、インド、日本で増加し、SX-EW生産はチリ、アフリカ、米国で増加する見込みで、これらが世界の増加の大部分を占める。2006年、2007年に精鉱在庫が大いに消費されたこともあり、2008年の精鉱生産が地金生産の伸びを抑制すると予測される。

#### 〈需給バランス〉

需給バランスは、2006年に230千t、2007年に110千t、2008年に250千tと供給超過で推移する見通し。

## 2. 鉛の国際市況と需給動向（2008年1月まで）

企画調査部

1. 鉛価格は、LME在庫が回復し下落傾向にある。
2. 2007年1～11月の世界消費は前年同期比1.9%増。鉱山生産は、前年同期比2.9%増。地金生産は2.4%増であった。
3. 2007年1～11月の世界の需給バランスは、77千tの供給不足であった。

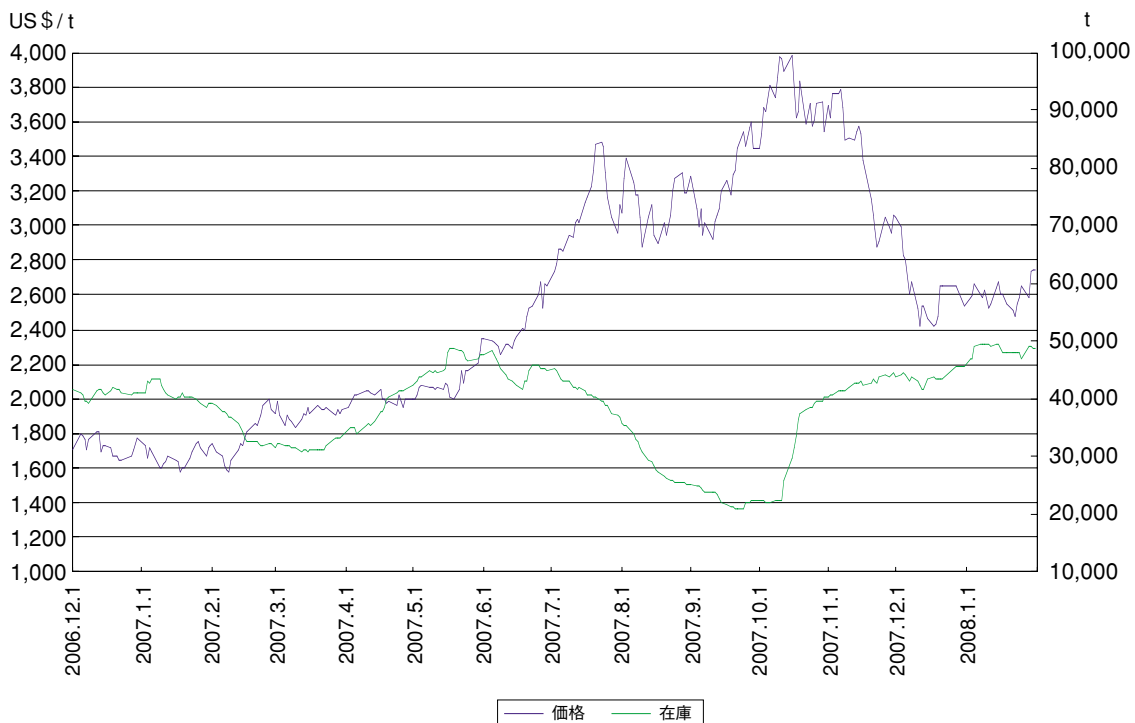
### 1. 国際価格（2007年12月～2008年1月）

鉛の国際価格は、LME在庫の回復もあり、上下はあったものの下落傾向にあるが、2,400US\$/t台～2,900US\$/t台と依然高い水準で推移した。

12月のLME鉛価格は12月3日に2,991US\$/tでスタートした後、上下しつつも12月17日に2,412US\$/tまで下落した。その後は、12月21日に2,655US\$/tまで回復し、12月31日に2,532US\$/tで終了した。

1月のLME鉛価格は1月2日に2,580US\$/tでスター

トした後は1月15日に一旦2,680US\$/tまで上昇したが、下落傾向にあり1月22日に2,480US\$/tまで下落した。その後回復し、1月31日に2,742US\$/tで終了した（図2-1）。



鉛	2007年												2008年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
LME在庫 (月末) (千t)	3	33	42	48	45	38	25	22	39	44	45	49	
平均価格 (US\$/t)	1,780	1,915	2,001	2,101	2,426	3,084	3,117	3,227	3,720	3,328	2,596	2,608	

図2-1 鉛価格と鉛在庫の推移

出典：LMEホームページ

## 2. 需給 (2007年1～11月)

- ① 世界消費は前年同期比で1.9%増。中国で16.0%増の相変わらずの顕著な伸びを記録し、世界第1位を維持。鉱山生産は、前年同期比で2.9%増。地金生産は2.4%増。
- ② 2007年1～11月の世界の需給バランスは、約77千tの供給不足であった。
- ③ LME 鉛在庫は、回復傾向にあるが依然低い水準である。

### 〈需要〉

2007年1～11月の世界消費は前年同期比で1.9%増の7,531千tであった。2位米国が2.7%減となったが、最大消費国の中国が16.0%増、3位ドイツが0.6%増、4位韓国3.2%増、5位イタリア0.8%増により全体として増加した。

### 〈供給〉

2007年1～11月の鉱山生産は前年同期比2.9%増の3,348千tであった。2位豪州が5.0%減、3位米国が前年並み、5位メキシコが6.6%減であったが、最大生産国の中国が7.9%増、4位ペルーが6.0%増により全体として増加した。

2007年1～11月の地金生産は前年同期比2.4%増の7,454千tであった。4位英国が9.0%減、5位日本が2.0%減であったが、最大生産国の中国が3.2%増、2位米国が1.3%増、3位ドイツが1.4%増となり全体として増加した。

### 〈需給バランス〉

2007年1～11月の需給バランスは、米国備蓄放出を考慮しても77千tの供給不足となった。

LME在庫は11月末約44千t、12月末約45千t、1月末約49千t、と回復傾向にあるが依然低い水準である(表2-1、2-2)。

表2-1 鉛の需給状況

単位:千t

鉛	2006年												2006年	2006年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1～11月
鉱山生産量	285	262	290	282	278	303	279	292	293	301	280	276	3,442	3,254
地金生産量	662	663	674	672	698	667	611	584	678	683	683	669	7,937	7,276
米国備蓄放出	5	2	3	4	2	1	0	0	0	0	0	0	17	0
消費量	639	644	643	668	681	660	664	614	686	704	680	651	7,953	7,394
需給バランス	28	20	35	8	19	9	-53	-30	-8	-20	3	18	1	-118
鉛	2007年												前年同期比 (%)	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1～11月計		
鉱山生産量	295	283	297	283	297	304	307	319	311	326	326	3,348	2.9	
地金生産量	680	658	671	706	712	686	682	635	655	664	697	7,454	2.4	
米国備蓄放出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
消費量	683	673	684	693	693	697	702	659	679	680	689	7,531	1.9	
需給バランス	-4	-16	-13	13	19	-11	-20	-25	-24	-16	8	-77	—	

※データは国際鉛亜鉛研究会のものを使用しているが合計等は必ずしも合わない。

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

表2-2 LME国別鉛在庫の推移

単位:千t

国名	2006年	2007年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
スウェーデン	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シンガポール	34.1	28.4	17.4	15.2	20.1	24.2	21.2	11.8	1.9	0.9	2.8	8.3
米国	6.0	10.6	14.0	18.3	21.8	23.2	23.6	24.3	22.5	19.5	19.3	19.3
イタリア	0.6	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0.2	0.4	10.1	8.7
ベルギー	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0.2	0.5	0.6	0.6
オランダ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.9	5.9
ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0.7	0.7
その他	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.8	0.4	0.6	0.7	0.9
合計	41.1	39.3	31.6	33.7	42.5	47.6	45.1	37.1	25.2	22.6	40.1	44.4

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

### 3. 今後の需給見通し（国際鉛亜鉛研究会予測）

#### 〈需要〉

世界の鉛地金消費は2007年に8,320千t（前年比で約4%増）、2008年に8,670千t（前年比で約4%増）と見込まれる。この伸びは主に中国での消費が自動車等に用いる鉛蓄電池の生産増加により2007年に前年比17%増、2008年に同10.2%増と見込まれるためである。米国では2007年は前年並み、2008年は2%増、欧州では2007年に0.6%減、2008年は1.6%増となる見込みである。

#### 〈供給〉

世界の鉛鉱山生産は2007年に前年比5.5%増の3,640千t、2008年に同10.4%増の4,020千tと見込まれる。この伸びは主に中国での新規鉱山やボリビアのサン・クリストバル鉱山の生産開始による。この他、マケドニア、ポルトガル、ロシア、スウェーデンなど欧州でも増産が見込まれる。

世界の鉛地金生産は2007年に前年比3.9%増の8,230千t、2008年に同5.4%増の8,670千tと見込まれる。この伸びはカナダ、中国、インド、カザフスタン、ポーランド、英国、米国の増産によるものである。

#### 〈需給バランス〉

2007年には89千tの供給不足となり、2008年には需給がほぼバランスする見込みである。

### 3. 亜鉛の国際市況と需給動向（2008年1月まで）

企画調査部

1. 亜鉛価格は、LME在庫の回復を受け、下落傾向にある。
2. 2007年1～11月の世界消費は前年同期比35%増。鉱山生産は8.5%増、地金生産は7.5%増。
3. 2007年1～11月の世界の亜鉛需給バランスは、28千tの供給不足となった。

#### 1. 国際価格（2007年12月～2008年1月）

亜鉛の国際価格は、LME在庫が回復していることもあり下落傾向となり、2,100US\$台から2,500US\$台で推移した。

12月のLME亜鉛価格は12月3日に2,541US\$/tでスタートしてからは、上下しつつも12月17日に2,241US\$/tまで下落した。その後は上昇を続け12月27日に2,421US\$/tまで達し、12月31日に2,290US\$/tで終了した。

1月のLME亜鉛価格は1月2日に2,384US\$/tでスタートしてからは、1月4日に一旦2,563US\$/tまで上昇した。その後は下落傾向に転じ1月22日に2,180US\$/tまで下落した。その後回復し、1月31日に2,392US\$/tで終了した（図3-1）。



亜鉛	2007年												2008年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
LME在庫 (月末) (千t)	94	106	96	76	73	66	65	61	72	80	89	111	
平均価格 (US\$/t)	3,310	3,271	3,557	3,830	3,603	3,547	3,249	2,881	2,975	2,541	2,353	2,340	

出典:LMEホームページ

図3-1 亜鉛価格と在庫の推移

資料

ベースメタル国際動向

## 2. 需給 (2007年1～11月)

- ① 2007年1～11月の消費は前年同期比3.5%増。鉱山生産は同8.5%増。地金生産は7.5%増であり、最大生産国の中国が18.7%と顕著な伸び。
- ② 2007年1～11月の世界需給バランスは28千tの供給不足。3月以降、供給不足の傾向が続いている。
- ③ LME在庫は、1月末に111千tと回復しているが依然低い水準にある。

### 〈需要〉

2007年1～11月の世界消費は前年同期比で3.5%増の10,442千tであった。2位の米国が9.7%減、3位日本が1.3%、5位韓国3.7%減となったが、最大消費国の中国が14.6%増、4位のドイツが4.3%増となり全体として増加した。

### 〈供給〉

2007年1～11月の鉱山生産は前年同期比で8.5%増の10,399千tであった。5位カナダが4.3%減となったが、最大生産国の中国が18.7%増、2位ペルーが20.6%と大幅増、3位豪州が5.4%増、4位の米国が7.1%増となり全体として増加した。

2007年1～11月の地金生産は前年同期比で7.5%増の10,407千tであった。2位カナダが1.6%減、4位日本が3.1%減となったが、最大生産国の中国が20.0%と大幅増、3位韓国が4.4%増、5位スペインが2.2%増となり全体として増加した。

### 〈需給バランス〉

2007年1～11月の需給バランスは7、8月に一旦供給超過となったが3月以降は供給不足で推移しており、米国備蓄放出を考慮しても28千tの供給不足となった。

LME在庫量は10月より回復傾向にあり、11月末に80千t、12月末に89千t、1月末に111千tと推移しているが、依然低い水準にある(表3-1、3-2)。

表3-1 亜鉛の需給状況

単位:千t

亜鉛	2006年												2006年	2006年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1～9月
鉱山生産量	833	814	874	869	875	902	878	884	885	899	855	869	10,350	9,584
地金生産量	883	843	854	874	910	893	868	876	908	938	932	965	10,673	9,678
米国備蓄放出	8	0	2	3	5	0	4	2	6	1	-3	0	28	28
消費量	914	879	929	915	952	924	917	888	949	990	907	914	11,043	10,090
需給バランス	-23	-36	-73	-39	-37	-30	-45	-10	-35	-51	22	51	-342	-440
亜鉛	2007年												前年 同期比 (%)	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1～11月計		
鉱山生産量	897	879	905	938	960	989	950	934	965	1,004	982	10,399	8.5	
地金生産量	954	908	947	919	969	952	924	919	953	992	972	10,407	7.5	
米国備蓄放出	0	0	0	1	1	4	1	0	0	0	0	8	—	
消費量	932	878	951	944	995	962	922	890	969	1,020	978	10,442	3.5	
需給バランス	23	30	-4	-25	-25	-6	3	29	-16	-28	-6	-28	—	

※データは国際鉛亜鉛研究会のものを使用しているが合計等は必ずしも合わない。

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

表3-2 LME国別亜鉛在庫の推移

単位:千t

国名	2006年	2007年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
米国	58.1	57.3	56.0	52.3	45.4	42.2	41.9	40.3	40.3	40.0	39.0	38.7
イタリア	1.6	0.8	0.6	0.2	0.4	0.2	0.0	0.8	0.4	0.1	0.0	0.0
マレーシア	3.5	2.8	0.9	10.7	8.4	5.3	1.7	1.6	1.4	0.4	3.4	2.4
UAE	0.0	0.0	0.0	10.9	10.6	6.9	11.9	7.6	3.3	5.2	15.0	12.3
シンガポール	23.6	34.2	32.8	29.0	21.6	10.7	6.2	6.3	9.6	2.3	1.9	1.1
オランダ	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	7.7	7.8	6.8	8.0	10.6	15.7	23.4
英国	2.8	2.5	2.3	2.0	1.8	1.7	1.5	1.4	1.2	0.9	0.8	0.6
その他	0.9	1.0	0.9	1.0	0.9	0.8	1.4	1.4	1.2	1.4	1.3	1.3
合計	90.5	98.5	93.5	106.1	95.2	75.5	72.4	66.2	65.4	60.9	77.1	79.8

出典:国際鉛亜鉛研究会資料



### 3. 今後の需給見通し（国際鉛亜鉛研究会予測）

#### 〈需要〉

世界の亜鉛地金消費は、2007年に前年比3%増の11,380千t、2008年に同5.1%増の11,960千tと見込まれる。中国の消費は2007年に8.8%増、2008年に12.1%増と堅調な伸びで、インドでの消費の伸びがそれに続く。米国では2007年は1.9%減、2008年は前年並みとなる見込みである。欧州では、ベルギーとイタリアでの伸びにより2007年に2.5%増、2008年に1.4%増となる見込みである。

#### 〈供給〉

世界の亜鉛鉱山生産は、2007年に前年比7.4%増の11,180千t、2008年に同9.5%増の12,240千tと見込まれる。ボリビアでは生産開始したサン・クリストバル鉱山により増加し、豪州、カナダでも2007、2008年に多くの新規鉱山が開発されるため顕著な伸びが見込まれる。ペルーでもアンタミナ鉱山の増産、セロ・リンド鉱山の生産開始により増加する見込み。この他、中国、ブラジル、インド、アイルランド、カザフスタン、メキシコ、ポルトガル、米国等を含む多数の国で増加が見込まれる。

世界の亜鉛地金生産は2007年に前年比5.9%増の11,320千t、2008年に同7.8%増の12,200千tと見込まれる。中国、インドで顕著な伸びとなり、特にインドではヒンドスタン・ジンの設備能力170千t/年のシャンドリア製錬所が2007年末に生産開始し伸びに寄与する。欧州ではベルギー、フィンランド、フランス、ポーランド、ロシア、スペインで増加し、この他豪州、カザフスタン、韓国、タイ、米国でも伸びる見込みである。

#### 〈需給バランス〉

需給バランスは2007年に約47千tの供給不足が予想され、2008年には供給超過に転じる見込みである。

# 4. ニッケルの国際市況と需給動向（2008年1月まで）

## 希少金属備蓄部

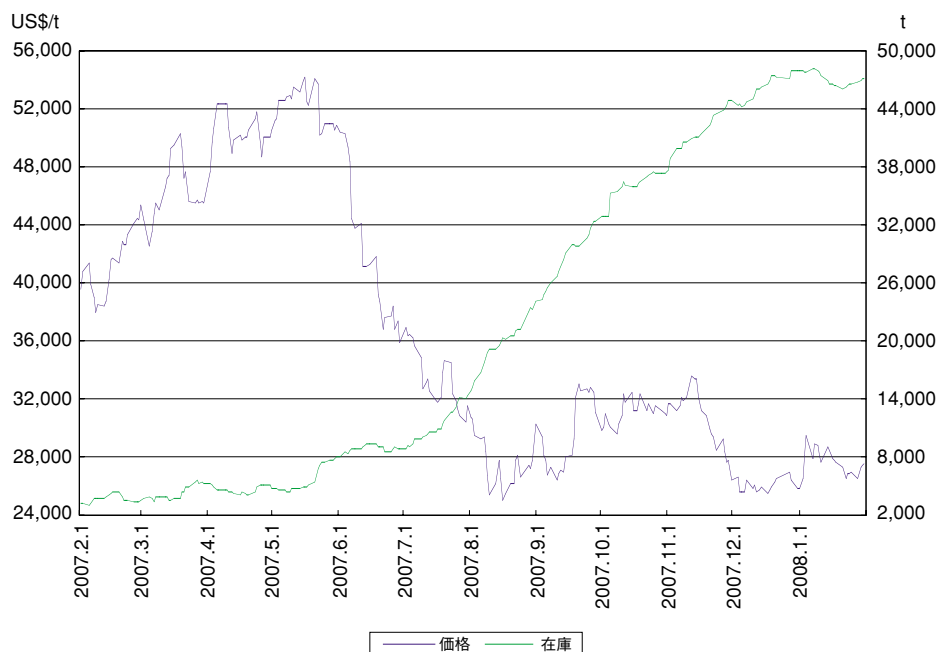
1. ニッケルの国際価格は、12月下旬27,005US\$まで上昇したが、再び25,805US\$へと下落。1月はじめ、在庫増加傾向の緩みなどから29,515US\$まで上伸したが、徐々に値を下げ、末日現在27,550US\$。
2. 2007年1～11月の需給バランスは、94.1千tの供給過剰。LME在庫量は、1月に入り増加傾向が緩み、末日時点で47,052t。
3. 国際ニッケル研究会によると、2007年の世界のニッケル需給は、約13.5万tの供給過剰と予測。ステンレス需要の本格回復には、もう少し時間がかかるとの見方が強い。

### 1. 国際価格（2007年12月～2008年1月）

ニッケルの国際価格は、12月中旬まで26,000US\$前後で推移、その後27,005US\$まで上昇したが、月末には25,805US\$へと下落。1月はじめ、在庫の増加傾向の緩みなどから29,515US\$まで上伸したものの、徐々に値を下げ、1月下旬には再び26,000US\$台となった。月末には多少回復し、末日現在27,550US\$。

11月下旬、ステンレス需要の弱まりや在庫の増加を材料に、26,000US\$台にまで下落したニッケル国際価格は、12月中旬まで25,500US\$～26,600US\$の範囲で推移した。その後、欧州や北米のステンレス需要が回復に向かうなどの情報を受け上昇し、27日には27,005US\$をつけたが、月末には25,805US\$へと値を落とした。1月に入ると、在庫の増加傾向が緩んだことに加え、ステンレス需要増大との観測を背景とした

投機的要因などから値を上げ、1月4日には29,515US\$にまで上伸。しかしその後は、足元需給は依然として供給過剰であることから徐々に値を下げ、1月下旬には再び26,000US\$台を付けた。月末には、欧州でのステンレス鋼生産が回復基調にあることなどから27,000US\$台で推移し、末日現在27,550US\$（図4-1）。



ニッケル	2007年												2008年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
LME在庫 (t)	3,342	5,232	4,980	7,914	8,856	14,412	24,324	32,934	37,662	44,334	47,940	47,052	
平均価格 (US\$/t)	41,184	46,325	50,267	52,179	41,719	33,426	27,652	29,538	31,005	30,610	25,992	27,690	

図4-1 ニッケル価格と在庫の推移

出典：国際ニッケル研究会

## 2. 需給 (2007年1～11月)

- ① 2007年1～11月の鉱石生産は10.4% (138.6千t) の増。一次地金生産は5.1% (63.7千t) の増。消費は5.8% (74.8千t) の減。
- ② 2007年1～11月の需給バランスは94.1千tの供給過剰。
- ③ LME在庫は、2007年5月下旬より増加傾向。2008年1月に入り増加傾向が緩み、末日時点で47,052t。

## 〈需要〉

2007年1～11月のニッケル消費は1,207.2千t (金属純分、以下同様) で、前年同期比5.8% (74.8千t) の減となった。消費量第1位の中国は30.0% (69.0千t) の大幅増であったが、第2位日本は14.5% (24.5千t) の減、第3位米国は6.9% (9.2千t) の減、第4位ドイツは7.3% (7.1千t) の減、第5位台湾は23.6% (20.4千t) の減となった。

## 〈供給〉

2007年1～11月のニッケル鉱石生産は1,477.5千t で、前年同期比10.4% (138.6千t) の増となった。最大生産国のロシアは0.7% (1.8千t) の微増、第2位カナダは11.0% (23.1千t) の増、第3位インドネシアは28.0% (37.7千t) の大幅増、第4位豪州は12.2% (18.6千t) の増、第5位のニューカレドニアは21.6% (20.6

千t) の増であった。2007年1～11月の一次ニッケル地金生産は1,301.3千tで、前年同期比5.1% (63.7千t) の増となった。最大生産国ロシアは4.7% (12.2千t) の減、第5位豪州は4.8% (5.0千t) の減であったが、第2位中国は56.9% (68.9千t) の大幅増、第3位カナダは5.2% (7.2千t) の増、第4位日本は0.3% (0.4千t) の微増であった。

## 〈需給バランス〉

2007年1～11月の需給バランスは、94.1千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫は、2007年5月下旬より増加傾向となり、11月下旬には40,000t台となった。2008年1月に入り、増加傾向が多少緩み、末日時点で47,052t (表4-1、4-2)。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位:千t、金属純分

ニッケル	2006年												1～12月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱山生産量	117.4	114.5	120.3	126.2	122.3	119.8	116.8	122.9	120.3	129.7	128.6	129.3	1,468.2
一次地金生産量	115.6	109.1	112.4	112.5	113.5	108.3	102.8	110.3	115.1	119.4	118.6	122.0	1,359.6
消費量	111.5	109.3	113.6	116.3	117.2	117.7	117.9	119.8	117.4	121.4	119.9	119.1	1,401.1
需給バランス	4.1	-0.1	-1.2	-3.8	-3.7	-9.4	-15.1	-9.5	-2.3	-2.0	-1.3	2.9	-41.5
ニッケル	2007年												前年同期比 (%)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1～11月計	
鉱山生産量	130.6	128.5	141.9	136.2	141.4	136.0	131.0	135.7	133.8	132.3	130.1	1,477.5	10.4
一次地金生産量	123.6	113.2	123.8	121.7	124.2	121.3	121.1	119.6	109.1	113.2	110.5	1,301.3	5.1
消費量	122.1	117.4	122.2	114.4	111.6	114.6	99.4	95.7	104.2	102.0	103.6	1,207.2	-5.8
需給バランス	1.5	-4.2	1.6	7.3	12.6	6.7	21.7	23.9	4.9	11.2	6.9	94.1	—

出典:国際ニッケル研究会

表4-2 LME国別ニッケル在庫の推移 (2007年1月～2007年12月)

単位:t

国名	2007年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベルギー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ドイツ	18	18	—	—	—	—	—	—	—	—	1,380	1,380
イタリア	—	36	72	60	108	66	48	—	—	—	—	—
韓国	2,070	1,776	2,004	1,890	2,928	3,414	3,432	3,366	2,190	1,848	1,098	36
オランダ	204	216	1,986	1,884	3,474	4,080	8,100	13,500	22,416	24,342	27,096	33,240
シンガポール	546	750	804	726	468	576	528	1,272	1,878	2,208	3,030	1,182
スウェーデン	90	—	—	330	408	120	1,704	3,276	3,318	3,540	3,660	3,846
英国	—	—	—	—	24	—	—	2,100	2,052	4,326	6,648	6,600
米国	438	546	366	90	504	600	600	810	1,080	1,398	1,422	1,656
合計	3,366	3,342	5,232	3,342	7,914	8,856	14,412	24,324	32,934	37,662	44,334	47,940

出典:国際ニッケル研究会

### 3. 今後の需給見通し

国際ニッケル研究会によると、2007年の一次ニッケル地金生産は7.8%増の147.0万t、一方、ニッケル消費は4.6%減の133.5万tとしており、需給バランスは約13.5万tの供給過剰と予測している。また、2008年の需給についても、10.3万tの供給過剰と予測している。

業界紙、メディア等によると、供給については、カナダ、インドネシア等の供給力増強やBHPビリトンのRavensthorpeプロジェクト（西豪州）をはじめとする大型新規案件の生産開始により、今後も引き続き増加傾向の見込みである。一方、需要については、欧州におけるステンレス需要は回復基調にあるとの見方もあるが、世界的なステンレス需要の回復には、もう少し時間がかかるものと見られている。スーパーアロイ、電池向け用途などは好調であるものの、当面、供給過剰の状態に変化はないとの見方が強い。

ニッケル価格については、1月に入り在庫の増加傾向が多少緩んだこと、ステンレス需要に回復の兆しが見られることなどから、当面は現在の水準で推移するとの見方が強い。Metal Bulletin誌では、2008年前半のニッケル価格を20,000US\$～32,000US\$の範囲で推移すると予測している。

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 企画調査部 宛

FAX:044-520-8750 または E-mail:mric@jogmec.go.jp

## 金属資源レポート 定期送付申込書

申込区分 (あてはまるものに○)

新規 ・ 変更 ・ 停止

### ○お届け先

ふりがな			
会社名*			
ふりがな			
部署名*			
ふりがな			
ご担当者名			
ふりがな			
ご住所*	〒	—	
T E L*	—	—	F A X* — —
E-mail*			
希望部数*			
送付を申し込む (やめる) 理由:			

【注】\*は必須項目です。必ずご記入下さい。(個人の場合は会社・部署名は不要)  
送付は、申込書受取後の発行分からとなります。

### ○(変更の場合)変更箇所のみご記入下さい。

ふりがな			
会社名*			
ふりがな			
部署名*			
ふりがな			
ご担当者名			
ふりがな			
ご住所*	〒	—	
T E L*	—	—	F A X* — —
E-mail*			
部 数*			

年 月 日

お名前: \_\_\_\_\_



独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 金属資源情報センターでは、金属鉱物資源に関する地質鉱床、探鉱・開発状況の他、世界各国の鉱業政策、鉱業関係法規、投資環境など、金属鉱業に関する資料を整理・収集し、閲覧、コピー、貸出のサービスを行っています。

また、資源機構金属部門のウェブページには、図書館の利用案内のほか、金属鉱業に関するニュースフラッシュ、カレント・トピックスなどの情報を掲載していますので、ぜひご利用ください。

○開館時間

平日 10:00～17:00

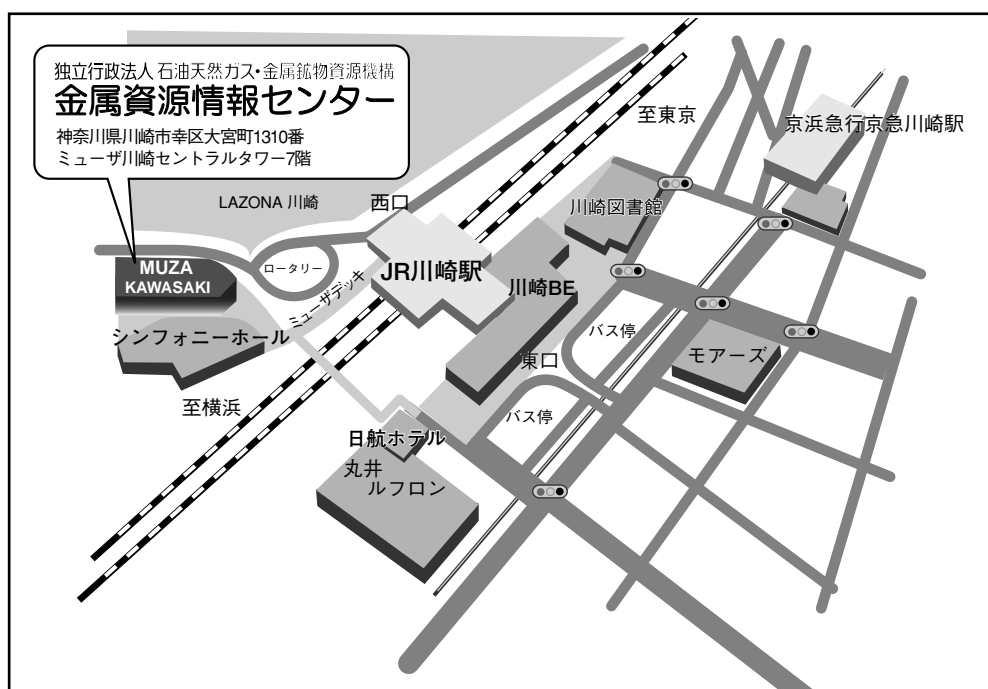
昼休み 12:30～13:30

○休館日

土日曜日・国民の祝日

年末年始・その他臨時休館日

ウェブページのアドレス：[http://www.jogmec.go.jp/mric\\_web/index.html](http://www.jogmec.go.jp/mric_web/index.html)



●交通のご案内

J R線ご利用の場合：品川から東海道線で10分

J R川崎駅西口直結

京急線ご利用の場合：品川から快特で10分

京急川崎駅から徒歩8分

## 金属資源レポート2008年3月号 (Vol.37 No.6 通巻第365号)

編集・発行 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

金属資源開発本部 企画調査部

Japan Oil, Gas and Metals National Corporation

Metals Strategy & Exploration Unit, Metals Strategy Department

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番

電話:044-520-8590 FAX:044-520-8750 E-mail:mric@jogmec.go.jp

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構



この印刷物は環境保護のため、古紙配合率100%の再生紙を使用し、印刷インキに「大豆油インキ」を使い、「水なし印刷」にて印刷しております。ISO 14001認証取得

